

第2. 4線橋（岐阜）

■西4線と4号・5号の中間で交わるところにある橋で、竣工は昭和60年12月です。

■明治32年、この場所に「角橋」という木橋が架けられました。

「岐阜開基百年史」には、当時の市街地から岐阜地区へいたる道路事情と角橋が架けられた背景が記載されています。長くなりますが引用します。
…当時、市街地から岐阜地区へ行くには、基線1号角から西1線3号線を経て西3線を約360m4号の方に上がり、そこから西4線、ライトコロ川まできて、川上の旧岐阜橋（18間橋）から180mほど下に出て高台の方へ行き、そこで川を渡り、高台沿いに西5線6号へ出て、5線道路を8号へと進んだといわれている。これを道路と定め、苜分け道と呼んでいたようだ。

しかし、明治31年の秋、常呂川の大洪水で家も畑も水浸し、家財は流され収穫はゼロという大きな被害を受けた。

もちろん救援の手を差しのばされたが、救援事業として明治32年1月に西4線4号のライトコロ川の架橋が行われた。岐阜地区の入植者が請け負って雪を掘り、氷を割り、三角のヤクラを組んで橋杭を下げるようにして川の中をゆさぶりながら突き立て、杭打ちをし、橋桁を置き、これに天角の角材を並べ長さ15間（27m）の橋がようやく完成した。これが「角橋」（4号橋）である。

この橋ができたことで、筏の渡河がなくなり、かつ罹災者1戸あたり平均10円の現金収入があり、これでどうやら春を迎えることができた。

※「常呂町史」では、「岐阜部落4号の開拓道路に、部落請負工事で道から180円の補助を受けて橋長5間、幅1間の木橋架橋」とあります。



* この写真は、明治32年架設の橋ではなく、その後架け替えられた大正から昭和初期の橋と思われます。



* 西4線5号側から見た橋の正面：右手が上流



* 西4線4号側から見た橋の正面：右手に民家



* 橋の下流側から橋を斜めに見て



* 西4線5号側から橋を斜めに見て：左側が下流



* 橋の上から上流を見て



* 橋の上から下流を見て